

# あげお能・狂言鑑賞会

## 能 「清経」

平家の世の栄華は翳り…。大将として反平氏を鎮圧させた平 清経。しかし源氏の上洛で平家一門は西国へ都落ち。船で九州・大宰府へ向かうが、さらなる反平家方の攻撃に追われ、豊前の国・柳ヶ浦に逃れて波間を漂う。絶望と喪失感のなか、ついに秋の美しい月の夜、親しんだ横笛を吹いて極楽往生を祈り入水してしまう……。

平家一門の都落ちの後、都でひっそり暮らしていた清経の妻のもとに家臣・淡津三郎が訪れ、清経の悲報を伝えた。形見に遺髪を渡されるが、再開の約束を果たせなかった夫を恨み、悲嘆にくれてその遺髪を宇佐八幡宮に納めてしまう。しかし夫への思いは募るばかり、夢でも会いたいと願い、ついに夢枕に清経の霊が現れる。清経の語る妻への想い、究極の救いとは――。

清経の心象風景と現実の情景を織り交ぜた舞は一番の見どころ。張り詰めた緊張感のなか、地謡、囃子、そして舞とが互いに織りなす描写は圧巻の芸術です。



## 狂言 「鬼瓦」

都から遠国へ帰る大名が太郎冠者とともに因幡堂の薬師如來に参詣。御堂を見て回り、ふと大屋根を見上げると、そこには厳つい鬼瓦が。ところが大名には、その鬼瓦が国許の女房そっくりに見えてしまい、早く会いたい、恋しいと大泣きする――。

大熊鶴泉氏のご厚意により、開場前にロビーで煎茶のおもてなしがあります。

※出演者は変更になる場合がございます。変更の際の払い戻しは致しかねます。  
※写真・ビデオ撮影および録音等をご遠慮ください。

高砂 梅若万佐晴 梅若万佐志 仕舞  
船弁慶クセ  
能「清経」の見どころ  
地謡 梅若 志長 梅若 泰志 長谷川 晴彦  
狂言 鬼瓦  
シテ 善竹大二郎 アド 野島 伸仁  
能 休憩二十分  
清経  
シテ 梅若 泰志 ツレ 梅若 千音世 ワキ 御厨 誠吾 笛 成田 寛人 小鼓 幸 信吾 大鼓 大倉正之助 後見 梅若万佐晴 地謡 梅若 志長 加藤 真悟 長谷川 晴彦



うめわか やすし 梅若 泰志



観世流能楽師。  
1967年上尾市に生まれ、桶川に育つ。  
梅若万三郎に師事。  
1991年日本大学卒業。

在学中より謡・仕舞の稽古を始め、1989年梅若万三郎家に入門。1997年に独立。東京各地で演能の他、海外公演にも多数参加。上尾市・桶川市で能の普及に努めている。2015年、キラリ☆あげおPR大使に就任。重要無形文化財総合指定保持者。

■会場 上尾市コミュニティセンター ホール  
上尾市柏座4-2-3 TEL048-775-0866 FAX048-775-0868

■交通案内 JR高崎線 上尾駅西口から  
○徒歩約15分  
○東武バスウエスト(西口1番乗り場)  
西上尾第一団地(西柏座経由)・西上尾車庫行き「弁財入口」下車  
※ご来場の際は公共の交通機関をご利用ください。

